



だより

〒444-0802岡崎市美合町字並松1-2
Tel: 0564-51-1601 Fax: 0564-51-4831
E-mail: noudai@pref.aichi.lg.jp
ホームページ: <https://www.pref.aichi.jp/soshiki/noudai/>



CONTENTS

- 1 特集 農業大学校の進路指導
学生へのキャリア教育
- 2 令和4年度入学 入試を振り返って
- 3 専攻トピックス
- 4 研修のページ
令和3年度 農業技術研修 修了
令和3年度 愛知農業次世代リーダー塾 修了
令和3年度 ニューファーマーズ研修 修了

愛知県立農業大学校
公式HP



SNS

Instagram



Twitter



特 集



農業大学校の進路指導
学生へのキャリア教育

農業大学校農学科の学生は、農業後継者が多数を占めてきた時代もありますが、現在、入校者の7割が非農家出身者で占められており、農業法人の増加によって雇用就農の環境が整ってきたことから、非農家出身者の農業法人への就農が増えています。また、農業関係企業・団体等へ就職を希望する学生も増えています。

このような状況の中、農業大学校では、増加する非農家出身者や雇用就農希望者などへの就農・就職サポートが重要となっています。学生一人ひとりの就農・就職等の希望の進路に沿ってさまざまなサポートに対応しており、そのために学生への「キャリア教育」が重要となっています。

2年間に社会人として巣立つためには、1年生の早い段階から「キャリア教育」を始め、2年生で本格的な就職活動を行っていきます。

農業大学校のキャリア教育とは

① 社会に出た際に必要な職業人としての能力開発↑農業技術の取得とともに社会人として働いていくための協調性やコミュニケーション能力を身に付けること

② 働くことの意義や職業観などを学ぶことで、意欲的に仕事に取り組む姿勢を身に付け、自分の進路を主体的に選択・決定できるようにすること

令和3年度 進路セミナーの実績

進路セミナー	時期	内 容
第1回進路セミナー	7月	「就職活動の取り組みについて」 「具体的な就職活動の手順」
第2回進路セミナー	11月	「労働基準関係法令の基礎知識」 「志望動機の表現方法や自己分析の重要性」
第3回進路セミナー	12月	「私の就職・進学活動の取組」 「農業法人が求める新入社員の資質と能力」
第4回進路セミナー	1月	「就職力をつけるための社会人マナー講座」
第5回進路セミナー	2月	「面接の心得」

■ 面談調査（進路希望調査）

「学生」から「社会人」へと大きな節目となる2年間のため、自らの進路を早い時期から決めていく必要があります。まず、入学して間もない時期（5月）に各専攻で先生による面談を行い、「進路の希望調査」を行っています。調査の段階では、学生の多くが自分の進路について漠然としており就農・就職について実感がわいていない状況です。

主体的な進路選択に向けて
（1年生）

■ **就職活動とは何かを知る**

第1回の進路セミナーでは、ハローワークから講師を招いて、就職活動はどのように行っていくのかを学びます。また、本校職員からは進路別に具体的な活動手順を話します。この段階で就職など進路について実感させ、早めのスタート・準備を促します。



第1回進路セミナー
進路活動の取組(講師:ハローワーク)

■ **働くこととは何かを考える**

9月下旬から農家派遣実習があります。学生は社会に初めて出て、約40日間現場で働きます。この実習を通じて、農業の現場を知るとともに、働くことの意義についても学びます。この実習を経て、自分の進路を考え始める学生が増えてきます。

■ **志望先を考える**

自分の進路を選ぶ際に、なぜその仕事を選ぶのか、自分に向いている仕事は何かを考える必要があります。それは志望動機にもつながります。このため、第2回の進路セミナーでは、学生一人ひとりが自己分析(自分の価値観、将来の夢、自分の長所・短所等)を行います。



農家派遣実習修了式(10月)
働くことの喜びや厳しさを知る

■ **実際の体験を聞く**

学生が具体的に就職活動を行うために、第3回の進路セミナーでは、進路が決まった2年生が「私の就職・進学活動の取組」として体験談を話します。「いつから就活を始めるべきか」、「どんな資格を取っておくべきか」など多くの質問に対し、雇用就農・就職・進学予定の2年生が体験談を通して回答し、1年生は自分の希望進路を強く意識

し、進路活動を実感していきます。



第3回進路セミナー
2年生の就職・進学活動の体験談を聴く

■ **就職先が求める社会人をイメージする**

第3回のセミナーでは就職先である企業等が雇用するにあたって、どのような学生を求めているのか本校の卒業生を雇用している農業法人の代表者から直接話を聞きます。特に協調性やコミュニケーション力を求めており、社会人として必要な能力を改めて学生は認識します。

■ **社会人として必要なルールを理解する**

第4回のセミナーでは、社会人とし

ての身だしなみやあいさつなどのマナーを学びます。学生は全員がスーツ等を着用し、社会人として必要な身だしなみから、座り方、姿勢、あいさつまできめ細かく指導を受けます。特に面接時の基本動作(座り方、立ち方、挨拶)を全員で先生にならって行います。また、電話のかけ方など社会人としてのルールも学びます。1月から会社説明会などを行う企業も多く、より実践的な授業となります。



第4回進路セミナー
社会人・面接に必要な身だしなみチェック

■ **自分をアピールする方法を知る**

第5回進路セミナー以降は、面接についての技術を具体的に学びます。面接時の三大質問(学生時代に力をいれたこと、自己PR、志望動機)のポイントや動作について事例を見ながら指導を受けます。また、3月から希望者にはハ

■ ハローワークや民間の就職支援会社による活動支援

本校に直接求人票を出す企業は農業関連企業・団体がほとんどですが、それ以外の企業を希望する学生もいます。このような学生に対応するため、ハローワークと連携の他、令和3年度から民間の就職支援会社と連携し幅広い分野での個別相談などによる就職先の紹介や就職活動支援を行っています。



民間就職会社も就職を応援！
就活リスタートセミナー(6月)

■ 就職活動に役立つデータ提供

本校では、学生が就職活動をする際には、報告書を提出させています。この報告書では、各会社・団体ごとにいろいろ、どのように会社説明会や面接、試験を行ったかなど具体的に記載されています。過去から卒業生の報告書は保

管されており、学生はいつでも閲覧することができます。それらの報告書を参考に学生は就職活動を行うことができます。

■ 就農志望学生への支援

卒業後に後継者として就農、新たに農業を始めた学生には、1年秋の農家派遣実習の他、10月に先輩農家を本校に招いて話を聞く「ようこそ先輩！」や11月に行われる愛知県4Hクラブ員プロジェクト発表会で4Hクラブと意見交換を行い、実際の農業現場について若い農業者の話を聞くことができます。

また、本年度から校内に県下の新規就農希望者の就農相談窓口として「農起業支援ステーション」が設置され、学生は相談することができるようになりました。本年度も3名の学生から相談



先輩農業者へ農業現場について質問
(愛知県4Hクラブプロジェクト発表会)

を受け、うち1名は法人就農、1名は農家で研修し将来就農する予定になっています。



学生の就農相談に基づき就農先を検討
(農起業支援ステーション)

■ 多様な進路への対応(4年制大学等への編入 海外研修)

本校は、専修学校として4年制大学への編入が可能です。毎年数名の学生が4年制大学への編入を希望しています。これらの学生に対しては、本年度から進路希望者向けのガイダンスを行い、編入先の過去の試験問題や面接などの情報提供の他、模擬面接会などを行っています。

海外研修希望者へは、6月頃に愛知県国際農友会会員が本校で海外派遣研修説明会を開催し、実際に研修に参加した会員の話を聞く機会にもなっています。

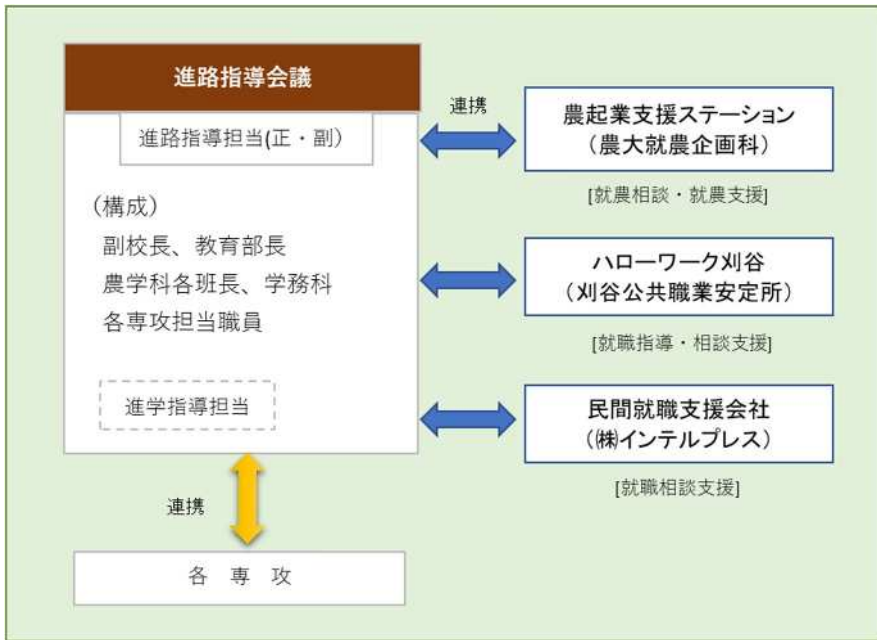
農大生へエール 就職支援会社(株)インテルプレス 森 千紘さん



皆さんの将来を決める「就職活動」では、就職先の選択から内定獲得に向けた準備まで、不安なことばかりです。ね。そんな皆さんのために、今年から農業大学の皆さんの就職活動支援を行ってきました。6月の「就活リスタートセミナー」では、自己PRの書き方、企業選びのポイント、7月、9月には一人ひとりの悩みに合わせてアドバイスや企業紹介を行ってきました。農大生の皆さんは、素直で一生懸命に取り組む方が多く、支援を受けた学生さんは、自分に合う就職先を見つけたことや、志望企業から内定をいただくことが出来ました。

就職活動が本格化する1年生の皆さん！就職活動には「正解」がありません。一人で考え込むのではなく、就職相談窓口や就活セミナーを是非利用してください。

一緒に頑張りましょう。



進路指導体制
(進路指導会議)

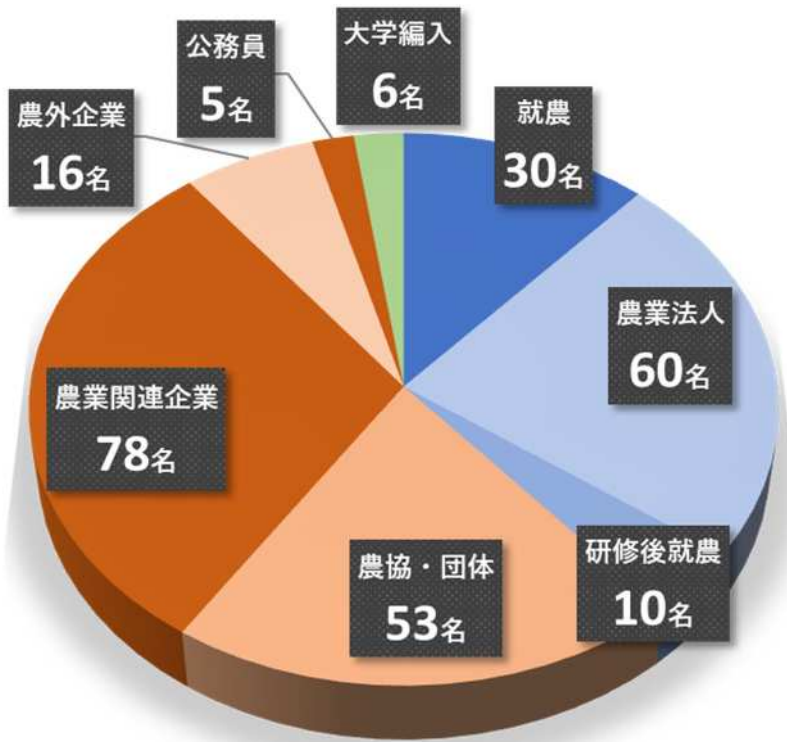
学務科や各専攻職員による進路指導会議を定期的開催し、学生の進路状況の把握や指導方針など定期的に検討しています。

学生の進路状況等について



進路指導担当
農学科 落合敏弘

本校卒業生の進路は、就農・就職・進学・研修など多様ですが、ほぼ100%



過去3年間の就農・就職状況
(平成30年度・令和元年度・2年度)

0%の就農・就職率となっています。学生が希望の進路を決めるには、学生本人が、希望や自らの適性を分析し、早期に卒業後進路のイメージを明確にすることが一番肝心です。本校では、学生の多くが希望する就職について、農業法人等への雇用就農も含め、合同就職相談会を開催し学生と企業のマッチングを図るとともに、ハローワーク等の公的機関やインテルプレス

スのような民間会社の専門家の協力を得ながら、就職支援しています。また、今年度は、進学希望者に対して、ガイダンスや模擬面接会を実施しました。今後とも、進路別のガイダンスの企画や個別相談を強化し、学生一人ひとりが希望の進路に進められるよう支援していきます。



令和4年度入学 入試を振り返って



令和4年度入学入試では、『農業系高等学校後継者等特別推薦入試』に「特別推薦Ⅱ」を新たに設定しました。

「特別推薦Ⅰ」は、従来の出願条件と変わらず、
 ①同居する家族が自立経営可能な条件を備えた農業経営者で、その後継である者。
 ②高校在学中の評定平均値が3.2以上あり、心身ともに健全で本校の実習及び寮生活が可能である者です。

新たに設定した「特別推薦Ⅱ」の出願条件は、
 ①卒業後は愛知県内で就農する意欲が強い者（雇用就農含む）。
 ②高校在学中の評定平均値が3.5以上あり、心身ともに健全で本校の実習及び寮生活が可能である者。
 ③高校在学中に意欲的に取り組んだ実績がある者（例：農業クラブ及び生徒会執行部を経験した者、又は農業クラブ活動や部活動で中心的な役割を果たし、入賞実績がある者等）です。

特別推薦入試では、「特別推薦Ⅰ」で3名、「特別推薦Ⅱ」で5名出願があり、全員合格されました。本校としても就農意欲の高い優秀な学生が入学し、学業や寮生活、学生会活動で中心的な役割

を果たしてもらえることを期待しています。

また、一般推薦入試では41名が受験し、37名が合格されました。合格者のうち、県内農業高校生は24名でした。一般一次、二次入試では49名が受験し、37名が合格されました。コロナ禍ではありますが、県外からの受験者は昨年に比べて増加し、県外出身者の合格は11名（昨年4名）でした。

受験生の多くがオープンキャンパスに参加しており、今後も県内農業高校はもちろんのこと、農大への興味・関心を高める広報活動に努め、高校訪問や情報発信に努めていきたいと思えます。



（ ）内は前年度の値

	志願者数		受験者数				合格者数	
	男	女	男	女	男	女		
特別推薦	5 (11)	3 (4)	5 (11)	3 (4)	5 (8)	3 (3)		
一般推薦	26 (30)	15 (14)	26 (30)	15 (14)	23 (27)	14 (14)		
一般一次	35 (33)	16 (8)	31 (30)	13 (7)	25 (26)	11 (6)		
一般二次	5 (2)	0 (4)	5 (2)	0 (4)	1 (0)	0 (3)		
合計	105 (106)		98 (102)		82 (87)			

専攻トピックス

最近の各専攻で話題になったことや実習風景などをお届けします！

各専攻の様子は、農大のInstagram、ツイッターで情報発信しています。

スマホでの生育調査を
始めました！



施設野菜専攻では環境制御を学ぶ第一歩として昨年度より週1回生育調査を行っています。今年度からは農業総合試験場普及戦略部からの紹介で、スマホの写真機能を用いて茎径などを図れるツールを試験的に運用しています。これにより記帳作業が必要なくなり、作業時間が大きく短縮できることに加え、その写真をクラウド上で確認でき、利用することが可能となります。うまく運用できるようなれば、来年度より今の記帳方式からスマホを用いた生育調査へ変更し、効率的な生育調査を行っていく予定です。



春に向けてトンネルを
使った栽培すすむ！



春に収穫する野菜の定植が始まりました。この時期はトンネル栽培で気温を高くすることで、生育を促進すると共に野菜によっては寒さにあたり花芽がつくことを防いでいます。既にブロッコリー、ハクサイ、ニンジン、ダイコンを植えています。今後は直売で大人気のスイートコーンもトンネルを使って栽培していきます。農大は風が強くとンネルが吹き飛ばされることもありませんが、学生たちは負けずに何度も直立派な野菜を作っています。



小麦調査始まる!!



寒い日が続きますが小麦は順調に育っています。11月に播種した小麦ほ場では、溝堀り、除草剤散布、追肥等の作業を行いながら、小麦の栽培管理について学んでいます。本格的に1年生のみの実習となり、学生は四苦八苦しながらも実習に取り組んでいます。小麦の卒論に向けた調査も本格的に始まりました。この時期はまだ小さいため、茎数の調査は大変ですが頑張っています。



学びの中にも遊びを！
個性あふれる
卒論発表！



2月10日(木)、果樹専攻では卒論発表会が行われました。2年生は、1人5分という短い発表時間にも関わらず、わかりやすく、要点をまとめた発表を心掛けていました。1年生や先生方から積極的に質問があり、発表者は質問にも丁寧に回答していました。発表資料には、説明用の画像の他、動画や音声、演出など個性あふれる卒論発表会でした。





あり!?なし!? 動画での卒論発表

卒論発表会での出来事です。一人だけ、卒論の内容をまとめた動画を上映するという面白い方法で発表した学生がいました。学生らの感想は、「目新しい」が45%、「口述のほうがよい」が30%、「その他」25%という結果でした。情報の伝え方も多様化しています。どの方法にも長所・短所があり、一概にどれが良い・悪いとも言えないように思いますが、皆さんはどう思われますか？



動画は左のQRコードから御覧になれます(公開用に再編集してあります)。



春の花苗 準備中!

春の花苗の栽培が始まっています。先月まい種からはどんどん芽が出てきて、まずは一安心。それでも芽が出ただけ鉢上げや施肥といった作業が待っており、春はとにかく大忙しです。数がたくさんあると水やりだけでも多くの時間がかかりますし、寒い時期は水やりにも気を使います。ですが、このかわいい小さな苗たちが、きれいな花を咲かせて皆様のお手元に届くことを楽しみにしながら、学生たちは日々作業にいそしんでいます。



牛のブラッシング

寒い日が続いていますが、牛は春に向けて着々と体の準備をしています。春になると牛の被毛は冬毛から夏毛に生え替わるため、今の時期に体をブラッシングすると沢山の毛が抜け落ちます。抜けすぎでは、と心配したくなるほどですが、牛はブラッシングの気持ちよさにおとなしくしていることが多いです。ブラッシングは、すればするほど綺麗に、そして慣れて人懐っこくなるので、年間を通して実施しています。



豚ぶんの処理を 学びました

豚舎から搬送された豚ぶんは、発酵攪拌機で攪拌することによって堆肥化されますが、冬季は気温が低いいため水分が高くなってしまいます。そこで、発酵した堆肥と水分が高い豚ぶんを混ぜる作業を行いました。養豚を学ぶことは、豚を飼育することだけではなく、豚ぶんの処理まで学ぶことであることを身をもって体験しました。



大すうを成鶏舎に 移動しました

2月10日にウインドウレス育雛舎で飼育していた大すうを開放成鶏舎に移動しました。厳冬の移動で、事前に育雛舎の換気量を多くし、開放成鶏舎での寒さに耐えられるように、慣らした上で移動しました。羽数は約1200羽でしたが、スムーズに移動ができました。3月中旬頃から、白・赤玉鶏が、下旬頃から、名古屋コーチンが産卵開始すると思しますので、ご期待ください。



令和3年度農業技術研修修了

新たに農業を始めたい社会人向けの職業訓練である農業技術研修（愛知県雇用セーフティネット対策訓練農業科）の閉講式が1月28日（金）に農大で行われ、研修生28名が修了しました。研修生は延べ155日間（合計930時間）、農大ほ場における実習や講義等による訓練を受け、農業に関する基礎的な技術・知識を習得しました。

1月27日（木）には卒業発表会が開かれ、研修の成果や今後の就農への決意、経営方針等について発表しました。積極的ながらも、堅実な計画を発表する研修生も見られ、就農に対する熱意を感じる発表会となりました。

研修生は修了後、独立自営就農する人、農業関連法人

に就職する人など様々です。各地域の皆様の新たな仲間となりますので、今後とも御支援、御協力をよろしくお願いたします。



研修を修了して(研修生から)

赤松 利之さん

農業経験が無いま研修に参加しましたが、ほ場実習・講義ともに多岐に渡るカリキュラムで楽しく学べました。同期には様々な年齢層・経歴の方々が多く、色々なお話が聞けて刺激的でした。修了後は農業関係の会社に就職が決まりました。研修を通じて学んだことをブラッシュアップして独立就農を目指していきたいです。ご指導ありがとうございました。



野村 昌己さん

事務所から農場へ、マウスから鍬へ大変化した1年でした。人力での畝立て&マルチ張りや、夏の暑い中でのナス、ピーマン収穫等々今までとは全く違う生活に最初は戸惑うことが多い日々でした。しかし、研修仲間に支えられながら収穫の楽しさ、喜びを心と体で感じる事が出来ました。最後にご指導を賜りました諸先生方に感謝すると共に、今後も可能な限り講師を続けてくださいます様、お願い致します。



鍛次 真由美さん

年齢20代から70代がひとつのチームとなってほ場で汗を流した9か月。先生方には野菜栽培のいろはを真剣にご指導いただきました。数十年ぶりの学生生活は、学ぶこと・知ることの楽しさを感じる充実した毎日でした。厳しい暑さ寒さも今では良き思い出です。オールドルーキーも愛知県農大から農業人として走り始めます。この研修を土台にして、一歩ずつ前に進んでまいります。



村田 裕太さん

就農に向けて栽培技術習得の他、農業技術研修で知った就農支援制度を活用し研修中に日々着々と営農準備をすることができました。実務に備えてバックホウの運転資格を取得できたことも大きな収穫です。研修では世代を飛び越えた多くの仲間ができ、共に切磋琢磨できたことは人生で大きな転機になったと感じています。ありがとうございました。



令和3年度愛知農業次世代リーダー塾修了

令和4年2月9日(水)に令和3年度愛知農業次世代リーダー塾の経営計画発表会及び閉講式を開催し、13名が半年間、12回に及ぶ研修を修了しました。

第1回から第8回までは専門家からの講義により農業経営に必要な知識を習得しました。受講生は真剣に各講師の話聴き、知識を深めました。

第9回以降は、中小企業診断士から直接指導を受け、SWOT分析により自身の経営の置かれている状況を分析するとともに、グループ討議により他の受講生の考え方に



経営計画発表会

刺激を受けながら、将来の経営ビジョンを明確にし、5年後を目標とした経営改善計画を作成しました。

経営計画発表会では、緊張しながらも、「これからの自分の経営はこうして行くんだ。」という決意を込めた経営計画の発表となりました。その後の質疑応答も活発に行われ、中身の濃い発表会となりました。



修了証書の授与

研修を修了して(研修生から)

赤堀 正光さん

他作物を作られている方と知り合え、考えを知ることができました。自分の経営に対する見直しことができました。



小林 龍生さん

各講座で学んだことを自分にあてはめたらどうか、これを行うには何が必要か、いろいろ考えていく中で、自分が大事に思っていること、やりたいことが見えてきました。とても刺激を受けて、仕事への意気込みが変わってきました。ありがとうございました。



村松 勇毅さん

永続的な農業とはどうやったらいのか、どんな農業をしたいのかを考えることができた。経営をどうしたらいいかわからない時には、リーダー塾に行くのはいいなと思いました。



前田 章雄さん

商品の売り方や労務管理、GAPの必要性やカイゼンの必要性など、様々な知識を吸収できました。



犬塚 雄基さん

12回の講座ありがとうございました。5年後に目標を達成できるように頑張りたいと思います。お世話になりました。



竹内 将貴さん

受講生は、作目がバラバラで、全く同じ経営をしている方はいない中、自分では気付かない注目点を知ることができました。



令和3年度ニューファーマーズ研修修了

令和4年2月21日（月）に令和3年度ニューファーマーズ研修のプロジェクト発表会と閉講式を開催し、18名が研修を無事に修了しました。発表会では、各々のほ場で実施したプロジェクト活動の結果と、今後の営農目標を発表しました。皆さん、就農に対する強い決意が感じられる素晴らしい内容でした。

研修生は、研修終了後、各地域で就農し農業者の皆様の新たな仲間となります。引き続き、御指導、御支援をよろしくお願いいたします。なお、来年度もニューファーマーズ研修は引き続き開講予定です。令和4年度も意欲ある研修生が多数集まることを期待しております。



研修を修了して（研修生から）

鈴木 凌河さん

今まで農業について学んだことがなく、不安な部分もありましたが、先生方が丁寧に講義をしてくださり、素人の自分でも理解しやすかったです。また、品目がイチゴ以外の研修生と交流することもでき、とても有意義な時間を過ごせたと感じます。今後は西尾市でイチゴを約20a経営していきますが、「働き続けられる農業」をモットーに、ゆとりのある経営を目指していきたいです。



木村志穂里さん

農大では、就農準備、農家として生きていく上での有益な情報・制度を学びました。研修先では、人とは違った自分のやり方を探っていくことの大切さを学びました。研修修了後はイチゴの「章姫」を育てていきます。育苗を成功させるため、一つ一つの苗が自分の目の行き届く管理を行い、あまり規模を拡大し過ぎず収量を確実に確保していきたいです。



齋藤 真美さん

初めての農業を様々な地域・年代・作目の方と共に学べたことが楽しかったです。ベテランの先生方や先輩方の経験談に農業の現実と魅力を感じ、質問等への丁寧な対応に感謝。今後は田原市で親の農業を引継ぎ、秋冬キャベツを中心とした露地野菜の栽培で営農予定。学びを活かし試行することで、自分の農業の確立を目指します。



久野 宏哲さん

実際に一年を通して作業を行ったことで、作業の大変さを改めて学べた。また、農大の講義で、経営や法律などの実作業以外の農業に必要なことを学ぶことができたので、今後の経営に生かしていきたいと思います。家の果樹園を継ぐので、梨での就農を予定しています。有名な品種だけでなく新しい品種を積極的に取り入れ、敷地内の直売で新規のお客様に来てもらえるようにしたいです。

